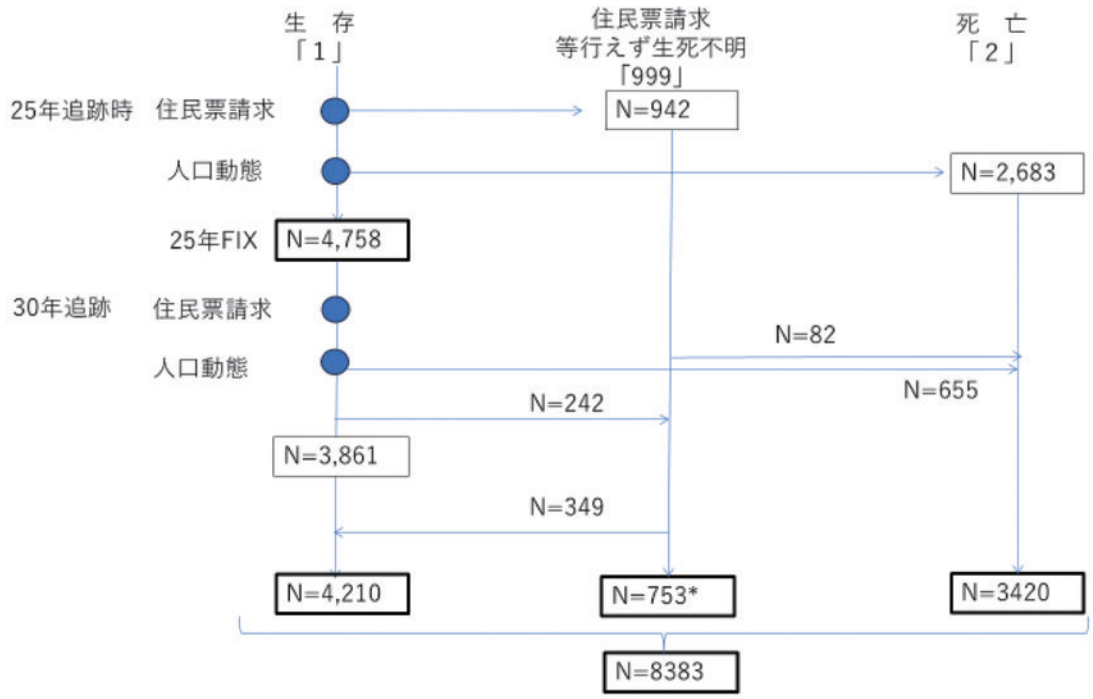
６．NIPPON DATA80/90 追跡・分析ワーキンググループ

（NIPPON DATA90 の 30 年追跡の実施とデータ作成（人口動態データとの突合）を行い、30 年追跡死亡リスク・健康寿命の関連要因を解明する。）

早川岳人（リーダー）、喜多義邦（サブリーダー）
原田亜紀子、門田文（滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門）

1. NIPPON DATA90 30 年追跡の実施

平成 2 年（1990 年）に循環器疾患基礎調査を受診した人達の追跡調査は、NIPPON DATA90 と呼称されているが、5 年ごとに住民基本台帳法にもとづく住民票請求により対象者の予後（生存、死亡）を確認し、死亡者に対して国の人口動態統計がまとまった段階で死亡原因を照合し、前向きに追跡を行っている。30 年目（1990 年から 2020 年の 30 年間）の予後追跡調査、死因照合作業を実施した。今回は、25 年追跡作業時以降に死亡が判明した計 737 例について作業を実施した（詳細は下記のフロー図を参照）



2. 人口動態統計データとの突合

厚生労働省から死亡動態統計データとして、平成 22 年（2010 年）から令和 2 年（2020 年）までの該当する死亡者データ（4,570,160 人分）を提供された。今回の照合作業は、人口動態データの変数切り出し、事務局にてリストアップした予後追跡情報との照合、結合

リストの作成、解析に必要な死因コード（配列）処理を行った。

1）動態死因レイアウト表を使用し、変数区切り位置をコード化（SAS コード）
2）切り分け済の人口動態データ 10 年分を縦方向にバインド
3）照合作業
① 人口動態データセットの変数処理、ND 側リスト読み込み・変数処理
② 照合作業：「性別_生年月日_地域コード_死亡日」のマージキーを作成し、これを照合キーとする
③ 照　合
④ Excel 出力：SAS マクロを使用し、結果掃き出し用 Excel シート（下記 5 つの表）に出力させる
表 1：人口動態統計結合状況集計表、表 2：対象者不一致対象者一覧、表 3 ：重複例
表 4　対象者結合者成功リスト、表 5　ICD10,死因簡単分類情報連結リスト
4）後処理
死因階層処理、解析用データセットに必要な死因コードの配列処理
5）データセット化

上記、手順の実行により、照合作業初回で 5 件の不一致例が発生したが、3 件が同一自治体での死亡日 1 日違い例、1 件が元号西暦処理の誤り、1 件が市町村合併例のコード更新もれであった。いずれもデータの確認後照合でき、死亡リストアップ 737 全例の照合が完了した。

今後の作業としては、これまでの追跡データに情報を追加し、解析データセットの固定、配布準備をすすめる。

3. 25/30 年追跡の粗集計

	25年追跡結果	30年追跡結果
平均追跡期間(年)	20.4	23.9
総死亡数(%)	2683(32.0)	3420(41.9)
循環器疾患死亡(%)	785(29.3)	983(28.7)
虚血性心疾患死亡(%)	171(6.4)	201(5.9)
脳卒中死亡(%)	303(11.3)	363(10.6)
脳梗塞死亡(%)	182(6.8)	222(6.5)
がん死亡(%)	880(32.8)	1073(31.4)
肺炎死亡(%)	264(9.8)	325(9.5)

＊ 総死亡数(%)は全対象者における割合、死因別死亡(%)は総死亡における割合